

青森県内の消費生活相談状況（令和 7 年 4 月～9 月）のポイント

【相談全体に関して】

- 令和 7 年 4 - 9 月の消費生活相談件数は計 4,584 件で、前年同期と比較して 493 件の増加（増加率 12.1%）となっています。
- うち特殊詐欺の相談は計 168 件で、前年同期と比較し 163 件（49.2%）減少しました。これは、特殊詐欺のほとんどの種類の相談が減少したことが要因となっています。

【特徴・変化】

① 高齢者からの相談件数は増加

- ・ 65 歳以上の高齢者からの相談件数 1,751 件（前年同期比+211 件、増加率 13.7%）
- ・ 相談全体に占める割合 38.2%（前年同期 37.6%）

② 各年代の相談状況

- ・ 20 歳未満からの相談件数 95 件（前年同期比+3 件、増加率 3.3%）
件数が多い相談：教養・娯楽サービス（インターネットゲームなど）
- ・ 20 代からの相談件数 335 件（前年同期比+52 件、増加率 18.4%）
件数が多い相談：保健・福祉サービス（エステ、美容医療など）
- ・ 30 代からの相談件数 298 件（前年同期比+20 件、増加率 7.2%）
件数が多い相談：金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービスなど）
- ・ 40 代からの相談件数 512 件（前年同期比+38 件、増加率 8.0%）
件数が多い相談：金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービスなど）
- ・ 50 代からの相談件数 737 件（前年同期比+69 件、増加率 10.3%）
件数が多い相談：保健衛生品（化粧品、医薬品など）
- ・ 60 代からの相談件数 880 件（前年同期比+124 件、増加率 16.4%）
件数が多い相談：保健衛生品（化粧品、医薬品など）
- ・ 70 代以上からの相談件数 1,303 件（前年同期比+129 件、増加率 11.0%）
件数が多い相談：商品一般（不審な電話やメール、架空請求詐欺など）

③ 特殊詐欺に関する相談が減少

- ・ 特殊詐欺に関する相談件数 168 件（前年同期比▲163 件、減少率 49.2%）
- ・ 相談全体に占める特殊詐欺の割合 3.7%（←前年同期 8.1%）
- ・ 特殊詐欺のうち、投資詐欺相談件数 64 件（前年同期比▲19 件、減少率 22.9%）

④ 定期購入に関する相談が増加

- ・ 定期購入（化粧品・健康食品等） 522 件（前年同期比+3 件、増加率 0.6%）

⑤ 自動音声がかかる不審電話に関する相談が増加

- ・ 自動音声がかかる不審電話 200 件（前年同期比+88 件、増加率 78.6%）

⑥ 副業に関する相談が減少

- ・ 副業（登録料を支払ったが稼げない等） 112 件（前年同期比▲8 件、減少率 6.7%）

令和7年4-9月における青森県内の消費生活相談状況

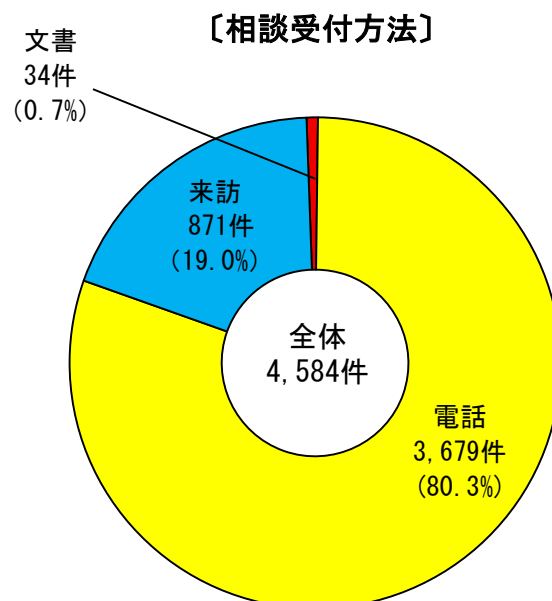
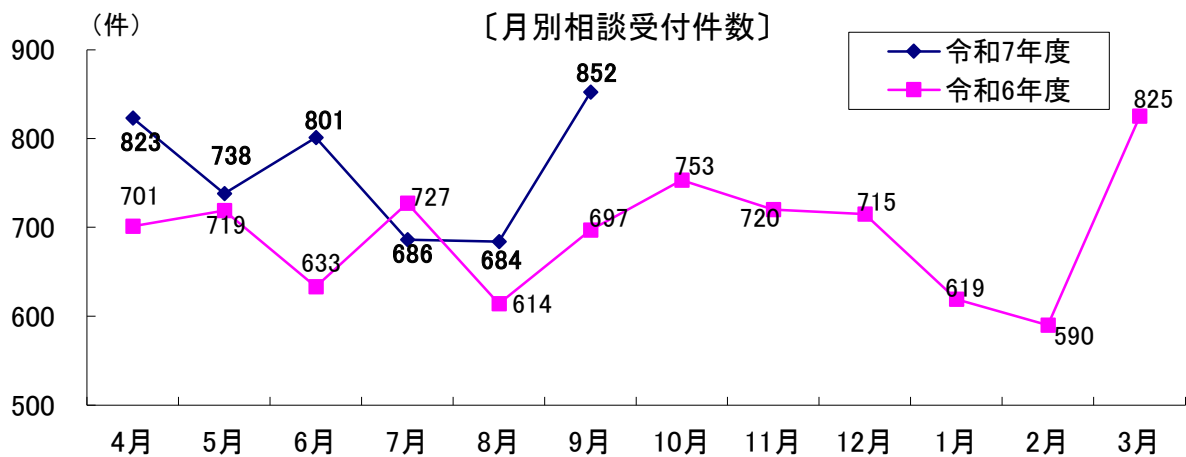
1 相談状況

(1) 概況

令和7年4-9月に県内の消費生活相談窓口で受け付けた消費生活に関する相談件数は、4,584件（苦情相談4,021件、問合せ563件）であり、前年同期と比較して493件（12.1%）増加しています。

（単位：件）

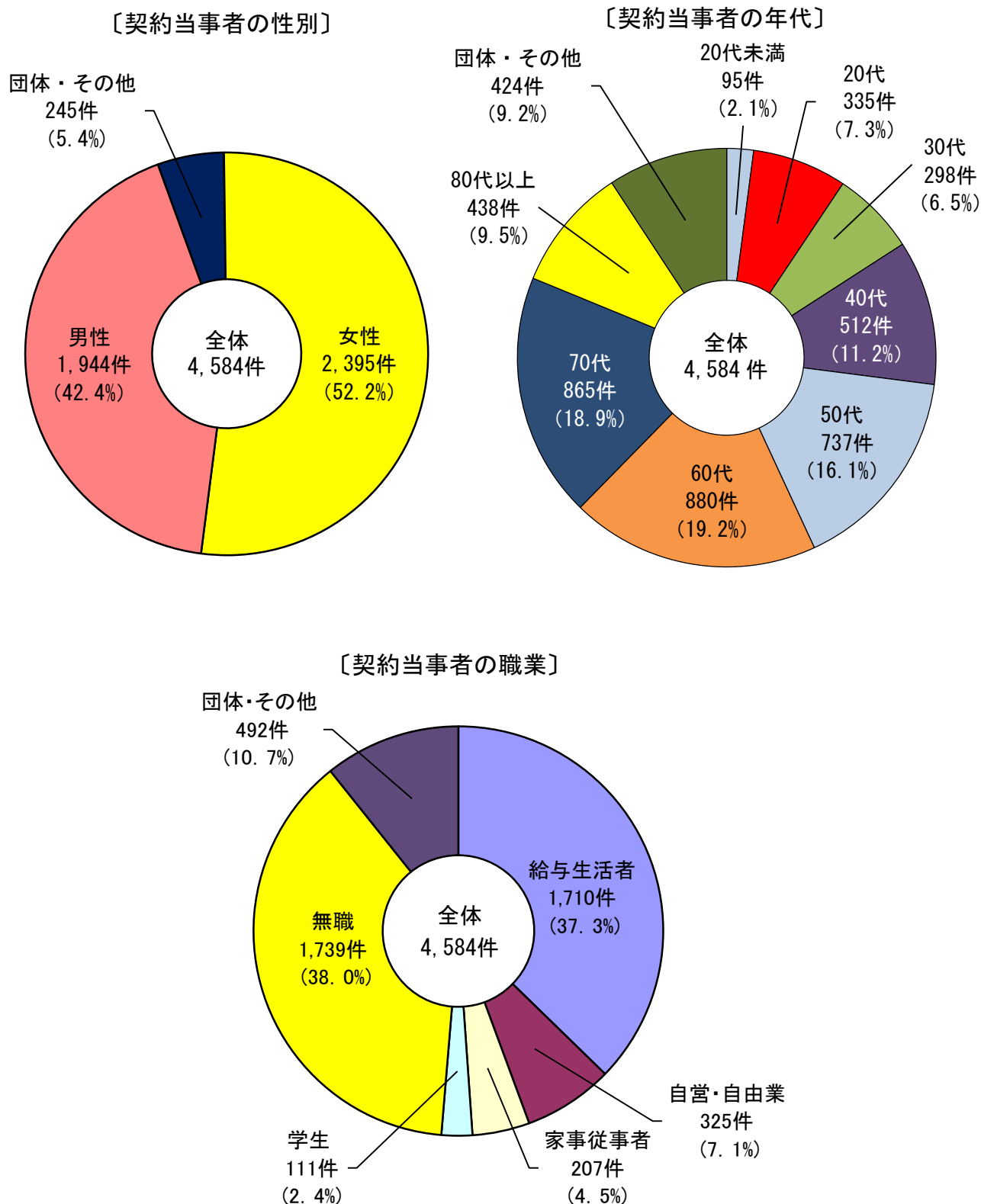
項目 \ 年度	令和7年 4-9月 (a)	令和6年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦 情	4,021	3,430	591	117.2%
問 合 せ	563	660	▲97	85.3%
要 望	0	1	▲1	-
計	4,584	4,091	493	112.1%



(2) 契約当事者の状況

契約当事者を性別で見ると、女性が2,395件で、全体の52.2%を占めています。年代別では60代が880件(19.2%)と最も多く、次いで70代が865件(18.9%)となっています。

また、契約当事者を職業別でみると、無職が1,739件(38.0%)と最も多く、次いで給与生活者が1,710件(37.3%)となっています。



(3) 主な商品・役務別の相談状況

(単位：件)

	商品・役務名	令和7年 4-9月 (a)	令和6年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商 品 一 般	624	545	79	114.5%
2	運 輸 ・ 通 信 サ ー ビ ス	512	398	114	128.6%
3	保 健 衛 生 品	468	398	70	117.6%
4	金 融 ・ 保 険 サ ー ビ ス	380	417	▲37	91.1%
5	食 料 品	319	372	▲53	85.8%
	そ の 他	2,281	1,961	320	116.3%
	計	4,584	4,091	493	112.1%

※商品役務別の詳細は P18 商品・役務別内訳表参照

1 「商品一般」

令和7年4-9月の相談件数は624件で、前年同期より79件(14.5%)増加しています。商品一般は、商品が多岐にわたる相談や、商品を特定できない相談が分類されます。また、「消費料金」等の債務内容が不明な架空請求の相談や公的機関を装った不審電話、宅配業者等を騙るフィッシング詐欺に関する相談が含まれています。

2 「運輸・通信サービス」

令和7年4-9月の相談件数は512件で、前年同期より114件(28.6%)増加しています。最も多いのは、インターネット通信サービスに関する相談の180件で、前年同期164件から16件(9.8%)増加しています。また、固定電話に関する相談は154件で、前年同期115件より39件(33.9%)増加しています。総務省などの公的機関の名称を騙って「あと2時間で電話が使えなくなる」という自動音声が流れる不審な電話に関する相談が増加したことが要因と考えられます。

3 「保健衛生品」

令和7年4-9月の相談件数は468件で、前年同期より70件(17.6%)増加しています。化粧品に関する相談が382件で全体の81.6%を占めています。保健衛生品のうち、353件は定期購入に関する相談となっており、前年同期309件より44件(14.2%)増加しています。

4 「金融・保険サービス」

令和7年4-9月の相談件数は380件で、前年同期より37件(8.9%)減少しています。最も多いのは、融資サービスに関する相談の193件で、前年同期242件から49件(20.2%)減少しています。次いで、クレジットカードの入退会に関する相談や、暗号資産やFXの投資に関する相談が含まれる「他の金融関連サービス」に関する相談が多くなっています。

5 「食料品」

令和7年4-9月の相談件数は319件で、前年同期より53件(14.2%)減少しています。最も多いのは、健康食品の186件で、前年同期251件より65件(25.9%)減少しています。健康食品のうち、141件は定期購入に関する相談となっており、前年同期186件より45件(24.2%)減少しています。

（４）契約当事者年代別商品・役務相談状況（上位３位）

契約当事者の年代別の商品・役務別上位３位は以下の表のとおりとなっています。20歳未満では、教養・娯楽サービスが１位になっています。その内訳を見ると、インターネットゲームに関する相談が主となっています。20代では、エステや美容医療などの保健・福祉サービスが１位になっています。30代、40代では、融資サービスなどの金融・保険サービスが１位になっています。

50代、60代は、化粧品の定期購入などの保健衛生品が１位となっています。70代は、光回線の電話勧誘や「あと２時間で電話が使えなくなる」という不審電話などの運輸・通信サービスが１位となっています。80代以上は、不審な電話やメールなどの商品一般が１位となっています。

（単位：件）

	1		2		3	
20歳未満	教養・娯楽サービス	28	食料品	14	保健衛生品	11
20代	保健・福祉サービス	55	教養・娯楽サービス	46	金融・保険サービス	44
30代	金融・保険サービス	38	商品一般	27	教養娯楽品	26
40代	金融・保険サービス	60	商品一般	51	保健衛生品	44
50代	保健衛生品	117	商品一般	84	金融・保険サービス	74
60代	保健衛生品	152	商品一般	109	運輸・通信サービス	103
70代	運輸・通信サービス	158	商品一般	144	保健衛生品	84
80代以上	商品一般	99	運輸・通信サービス	70	食料品	62
その他・不明	商品一般	82	運輸・通信サービス	55	他の役務	37

（５）相談に係る契約等の既払金額

令和７年４～９月の相談に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数は増加しましたが、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払金額は大幅に減少しています。

	令和７年 ４～９月 (a)	令和６年 ４～９月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	1,119 人	1,018 人	101 人	109.9%
既払金額合計	496,826 千円	712,628 千円	▲215,802 千円	69.7%
平均既払金額（一人当たり）	444 千円	700 千円	▲256 千円	63.4%
最大既払金額	30,000 千円	42,500 千円	▲12,500 千円	70.6%

2 消費生活相談における特殊詐欺の状況

(1) 概況

令和7年4-9月の特殊詐欺に関する相談件数は168件で、前年同期より163件(49.2%)減少しています。類型別に見ると、FX・暗号資産などの投資詐欺が64件(相談件数の38.1%)と最も多く、次いで振り込み詐欺の34件(同20.2%)、フィッシング詐欺の28件(同16.7%)となっています。

(単位：件)

類 型 \ 年 度	令和7年 4-9月 (a)	令和6年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
FX・暗号資産などの投資詐欺	64	83	▲19	77.1%
振り込み詐欺	34	106	▲72	32.1%
架空請求詐欺	32	93	▲61	34.4%
還付金詐欺	2	9	▲7	22.2%
融資保証金詐欺	0	3	▲3	-
オレオレ詐欺	0	1	▲1	-
フィッシング詐欺	28	86	▲58	32.6%
ウイルス感染の偽警告(サポート詐欺)	15	22	▲7	68.2%
出会い系サイト・アプリ	14	13	1	107.7%
ワンクリック詐欺	12	21	▲9	57.1%
老人ホームの入居権詐欺	1	0	1	-
合 計	168	331	▲163	50.8%

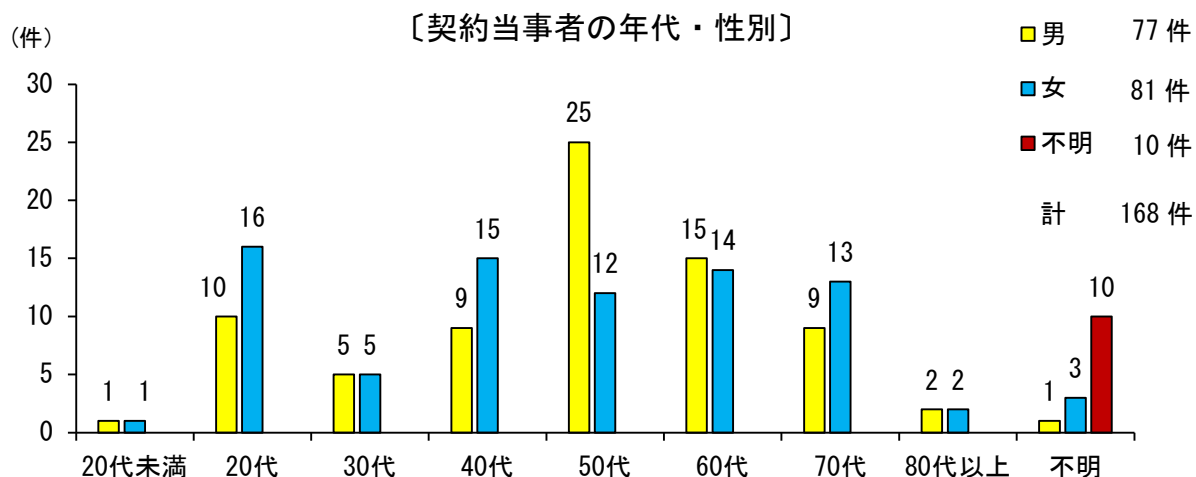
なお、それぞれの特殊詐欺の類型と、消費生活相談において分類される主な商品・役務名との対応関係は以下のとおりです。

(参考) 主な商品・役務別分類(P4)との対応状況

類 型	主な商品・役務名
FX・暗号資産などの投資詐欺	金融・保険サービス、教養・娯楽サービス
振り込み詐欺	商品一般、運輸・通信サービス
架空請求詐欺	保健・福祉サービス
還付金詐欺	金融・保険サービス
融資保証金詐欺	相談その他
オレオレ詐欺	
フィッシング詐欺	商品一般
ウイルス感染の偽警告(サポート詐欺)	他の役務、商品一般
出会い系サイト・アプリ	教養・娯楽サービス
ワンクリック詐欺	教養・娯楽サービス
老人ホームの入居権詐欺	保健・福祉サービス

(2) 特殊詐欺に係る当事者の状況

令和7年4-9月における特殊詐欺に係る当事者を年代・性別で見ると、50代男性が25件で最も多く、次いで20代女性の16件となっています。これまでは、在宅率が高いと思われる高齢女性が多くなっていましたが、最近は能動的に社会との接点を持つ年代の相談が目立っています。



(3) 特殊詐欺に係る既払金額

令和7年4-9月の特殊詐欺に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払額のすべてが大幅に減少しています。

	令和7年 4-9月 (a)	令和6年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	41 人	73 人	▲32 人	56.2%
既払金額合計	62,259 千円	148,812 千円	▲86,553 千円	41.8%
平均既払金額（一人当たり）	1,519 千円	2,039 千円	▲520 千円	74.5%
最大既払金額	12,000 千円	30,000 千円	▲18,000 千円	40.0%

3 相談全般における特徴

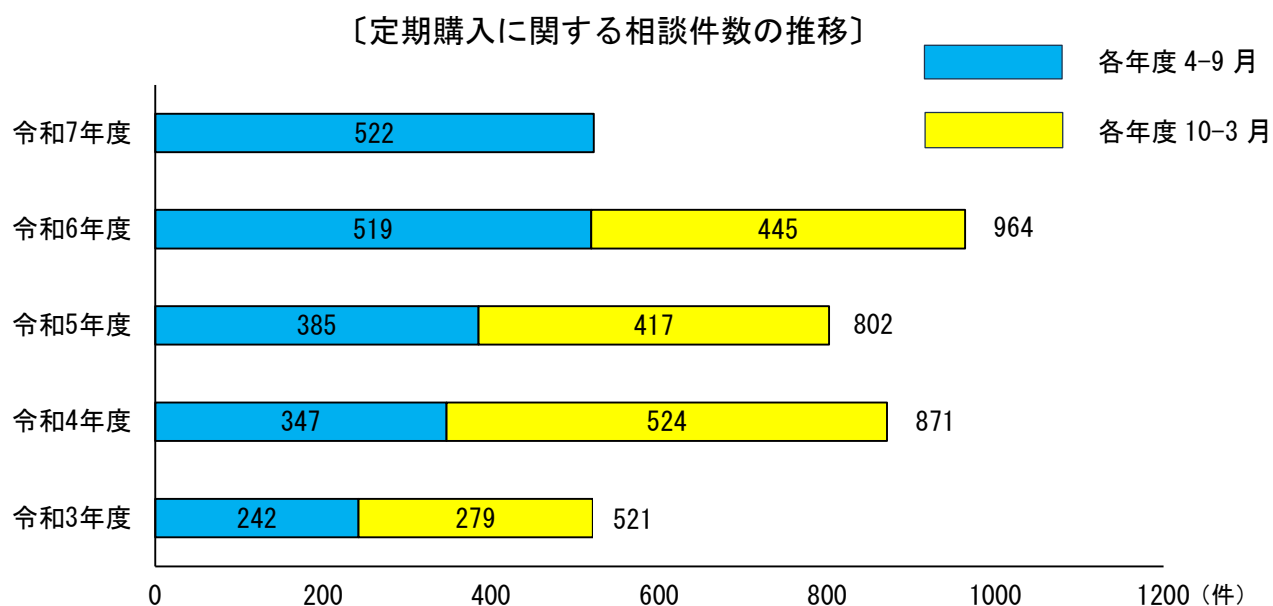
(1) 定期購入に関する相談が増加

令和7年4-9月の定期購入に関する相談は522件で、前年同期より3件（0.6%）増加しました。過去5年間の同時期の相談件数を見ると、令和7年4-9月が最も多くなっていることがわかります。

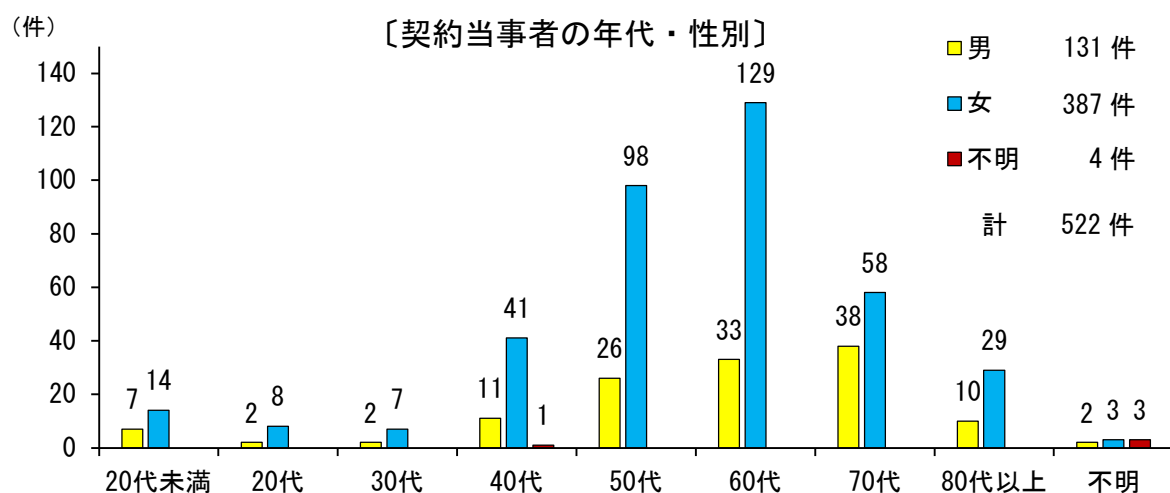
また、対象となる商品は化粧品が最も多く328件で、前年同期より44件（15.5%）増加、次いで健康食品が141件で、前年同期より45件（24.2%）減少しています。

（単位：件）

商品・役務名	令和7年 4-9月 (a)	令和6年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1 化粧品	328	284	44	115.5%
2 健康食品	141	186	▲45	75.8%
3 医薬品	21	17	4	123.5%
その他	32	32	0	100.0%
計	522	519	3	100.6%



契約当事者の年代・性別で見ると、60代女性が129件と最も多く、次いで50代女性が98件となっています。性別では、女性が387件と、全体の74.1%を占めています。

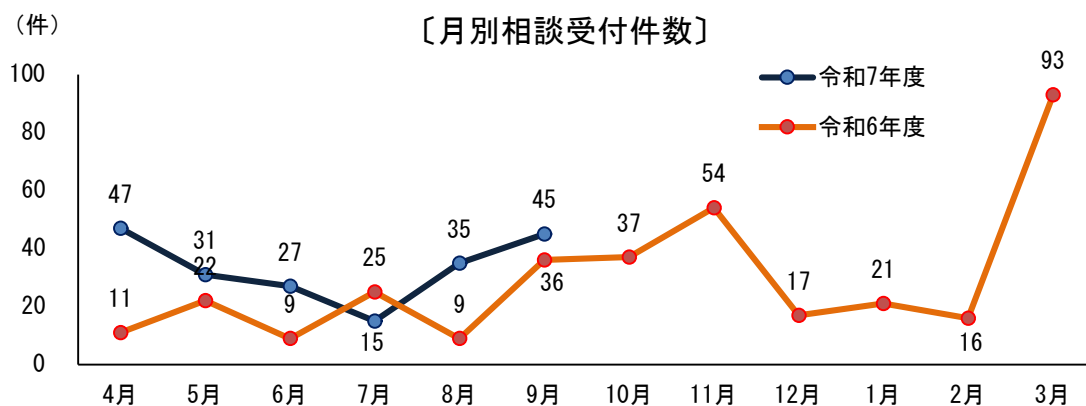


（２）自動音声による不審な電話に関する相談が増加

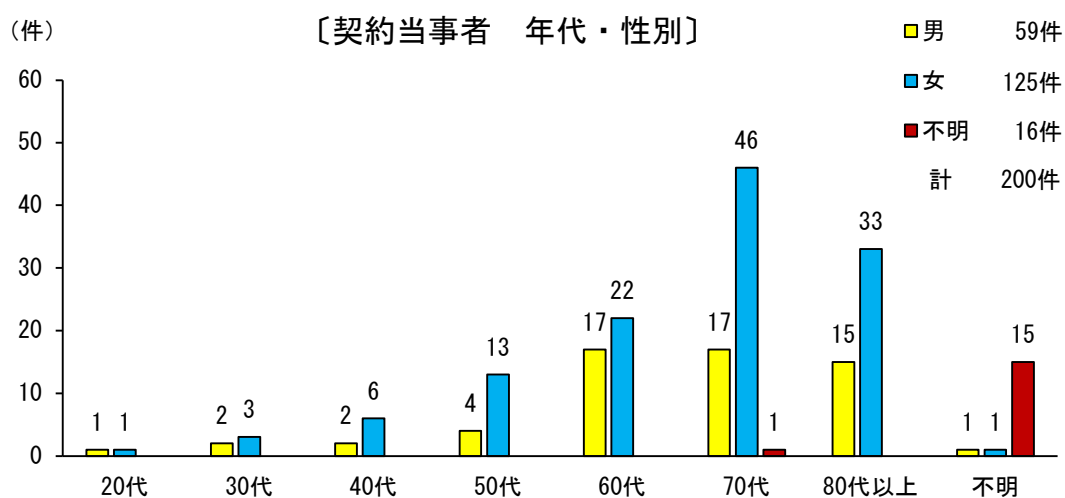
国の行政機関や大手通信会社を騙り、「あと2時間で電話が使えなくなります」という自動音声が出る不審電話に関する相談が令和6年度末以降増加を続けています。自動音声の案内に従って電話を操作することで、警察官を名乗る人物との通話が始まり、詐欺の被害につながる可能性のある不審電話と考えられます。

（単位：件）

	令和7年 4-9月 (a)	令和6年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
相談件数	200	112	88	178.6%



契約当事者の年代・性別で見ると、70代の女性が46件で最も多く、次いで80代以上の女性の33件となっています。65歳以上の高齢者が131件で全体の65.5%を占めており、在宅率の高さから固定電話に着信する不審な電話を受ける機会が多いことが要因と考えられます。



(3) 副業に関する相談が減少

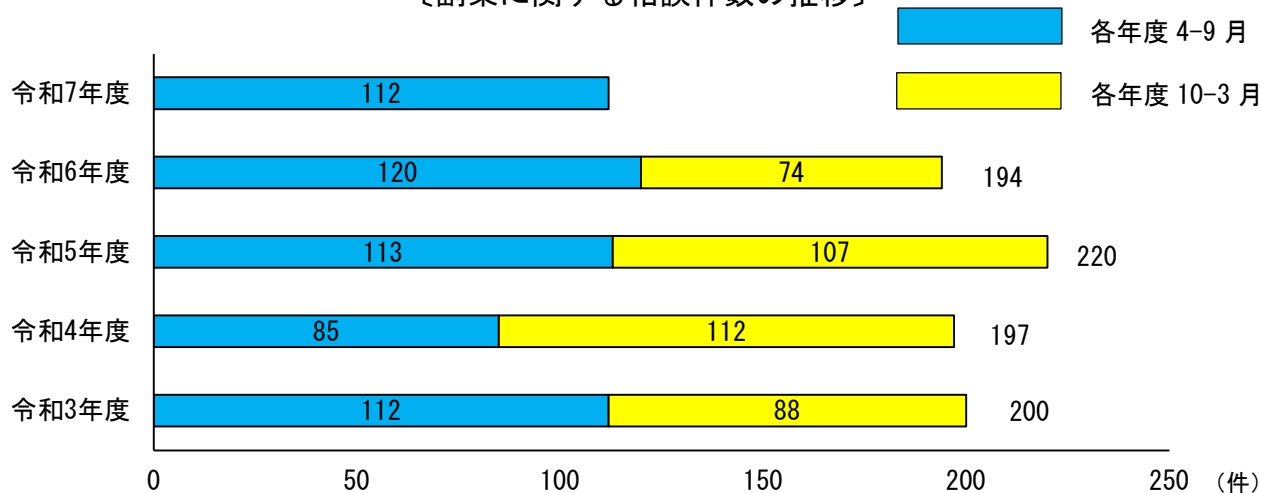
令和7年4～9月の副業に関する相談は112件で、前年同期より8件(6.7%)減少しました。過去5年間の相談件数の推移を見ると、減少傾向にあるように見受けられますが、これまでも増減を繰り返していることから引き続き注視していく必要があります。

収入を得るためのマニュアルの購入費用やサポート費用など、様々な名目で費用を請求された挙句、資金がないと伝えると、消費者金融から借金をして支払うよう強要されたものの、全く収入を得ることができず、結果的に債務整理をする事態に陥った事例も散見されます。

(単位：件)

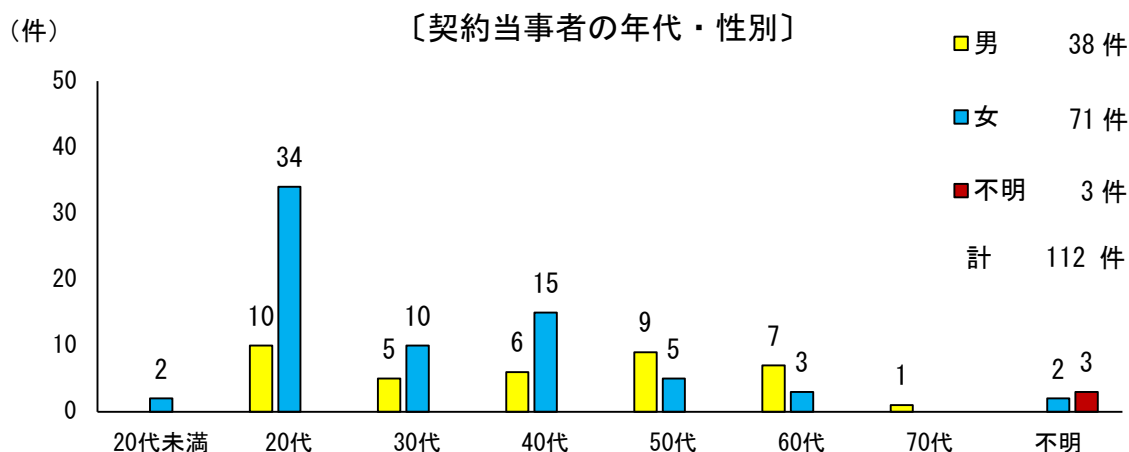
	令和7年 4～9月 (a)	令和6年 4～9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
相 談 件 数	112	120	▲8	93.3%

〔副業に関する相談件数の推移〕



契約当事者の年代・性別の特徴を見ると、20代女性の34件が最も多く、次いで40代女性が15件となっています。20代以下が全体の41.1%を占めており、前年同期39.2%よりも割合が高くなっています。

一方、性別では、女性が71件と全体の63.4%を占めています。



副業に関する相談に係る既払金額を見ると、お金を支払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払金額ともすべて減少しています。

	令和7年 4-9月 (a)	令和6年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	50 人	58 人	▲8 人	86.2%
既払金額合計	40,156 千円	56,531 千円	▲16,375 千円	71.0%
平均既払金額（一人当たり）	803 千円	975 千円	▲172 千円	82.4%
最大既払金額	3,399 千円	5,400 千円	▲2,001 円	62.9%

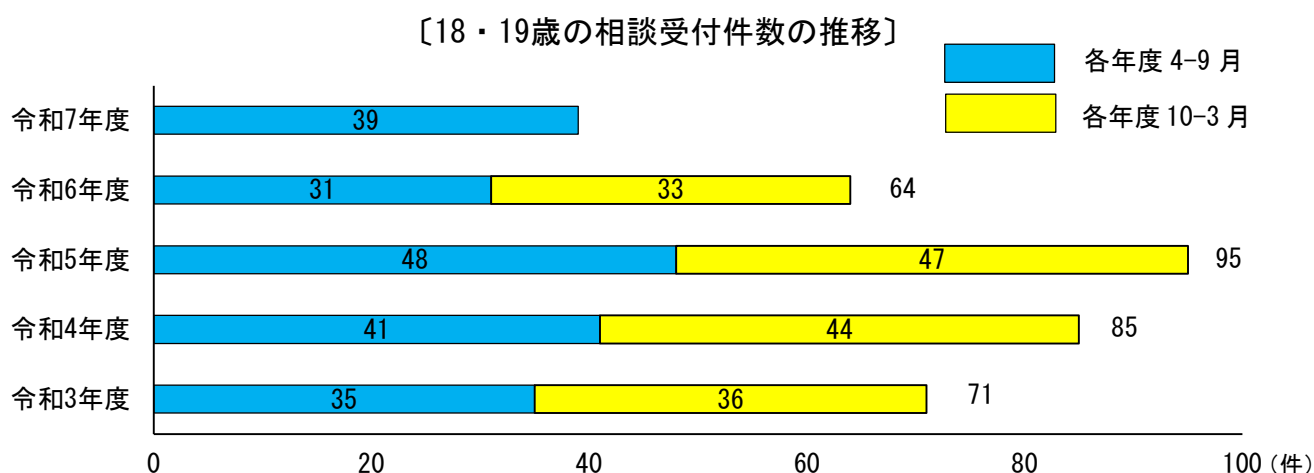
(4) 18歳・19歳の相談状況

① 概況

令和4年4月1日から改正民法が施行され、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これに伴い、これまで未成年者取消権により契約の取消しが可能だった、18歳・19歳の契約に関するトラブルが懸念されることから、この年代の相談状況に注目しています。

令和7年4-9月の18歳・19歳の相談件数は39件で、前年同期より8件（25.8%）増加しています。

過去5年間の18歳・19歳の相談件数を見ると、増加と減少を繰り返していることがわかります。



② 18・19歳の主な商品・役務別の相談状況

令和7年4-9月の18歳・19歳の相談では、契約していた脱毛エステ店が倒産したなどの保健・福祉サービスに関する相談が8件と最も多くなりました。次いで多いのは、副業サイトや懸賞サイト、ポイ活アプリなどの教養・娯楽サービスに関する相談が4件となっています。

（単位：件）

	商品・役務名	令和7年 4-9月 (a)	令和6年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	保 健 ・ 福 祉 サ ー ビ ス	8	0	8	-
2	教 養 ・ 娯 楽 サ ー ビ ス	4	4	0	100.0%
3	食 料 品	3	7	▲4	42.9%
	光 熱 水 品	3	0	3	-
	被 服 品	3	2	1	150.0%
	保 健 衛 生 品	3	1	2	300.0%
	そ の 他	15	17	▲2	88.2%
	計	39	31	8	125.8%

4 65歳以上の高齢者の状況

(1) 全般

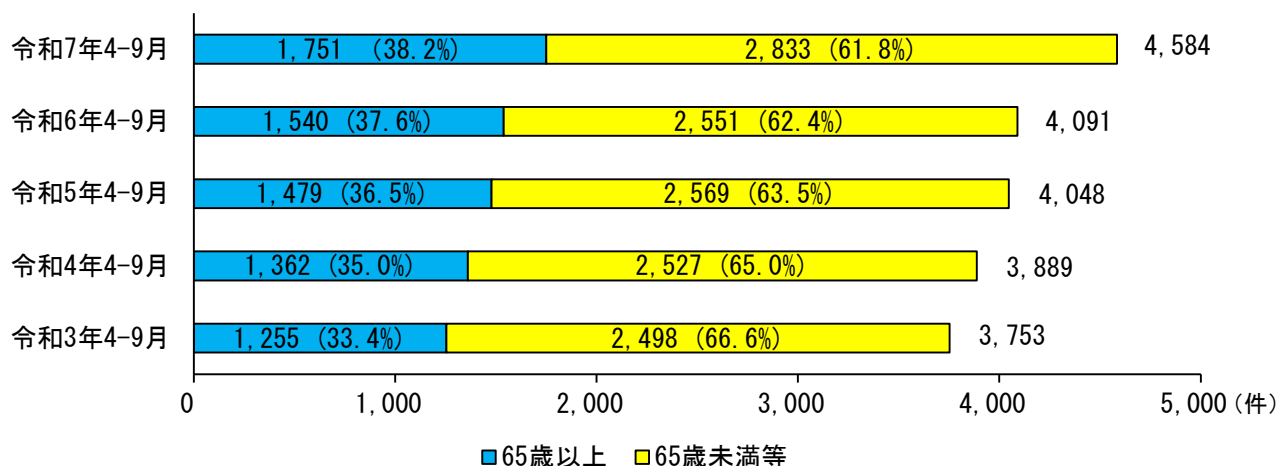
① 概況

令和7年4-9月の高齢者の相談は1,751件で、前年同期と比較して211件(13.7%)増加しています。相談全体に占める割合は38.2%で前年同期の37.6%から0.6ポイント増加しています。

(単位：件)

項目 \ 年度	令和7年 4-9月 (a)	令和6年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦情	1,529	1,243	286	123.0%
問合せ	222	297	▲75	74.7%
計	1,751	1,540	211	113.7%

〔相談全体に占める高齢者の割合と相談件数の推移〕



② 高齢者の主な商品・役務別の相談状況

令和7年4-9月の高齢者の相談では、不審な電話やメールなどの商品一般に関する相談が307件と最も多く、前年同期より63件(25.8%)増加しています。

次いで多いのは、運輸・通信サービスの284件で、前年同期より84件(42.0%)増加しています。光回線などのインターネット通信サービスに関する相談や、固定電話に関する相談が多くなっています。

次いで、保健衛生品の186件で、前年同期より28件(17.7%)増加しています。化粧品の定期購入等に関する相談が増加したことが主な要因となっています。

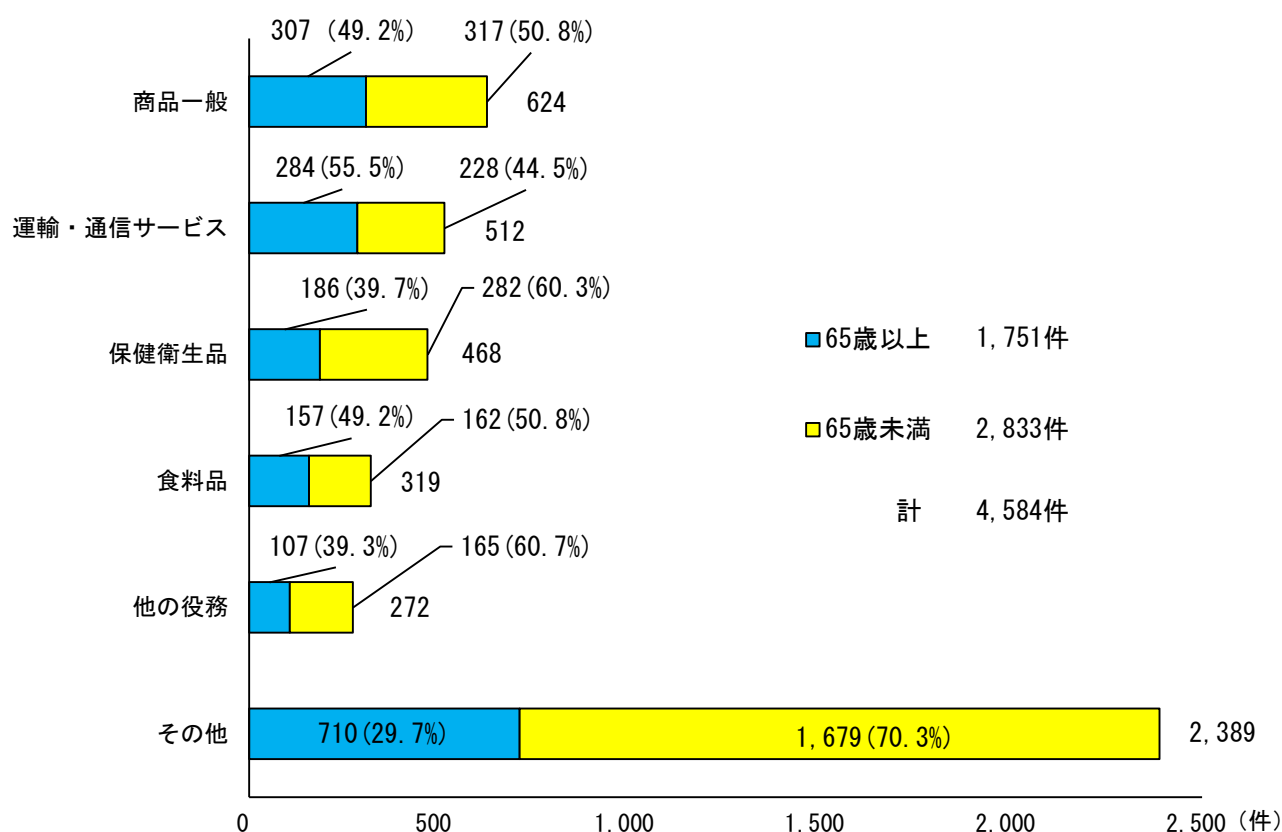
(単位：件)

	商品・役務名	令和7年 4-9月 (a)	令和6年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商 品 一 般	307	244	63	125.8%
2	運 輸 ・ 通 信 サービス	284	200	84	142.0%
3	保 健 衛 生 品	186	158	28	117.7%
4	食 料 品	157	173	▲16	90.8%
5	他 の 役 務	107	98	9	109.2%
	そ の 他	710	667	43	106.4%
	計	1,751	1,540	211	113.7%

〔主な商品・役務別の相談に占める高齢者とそれ以外の割合〕

主な商品・役務別の相談に占める高齢者の割合を見ると、運輸・通信サービスに関する相談が55.5%と最も高くなっています。通信関係の知識に乏しい高齢者に対し、「固定電話のデジタル化により、光回線に変更しなければならない」と言って光回線の契約をさせるインターネット接続回線に関する相談や、「あと2時間で電話が使えなくなる」という不審電話などの固定電話に関する相談が多くなっています。

次いで、商品一般と食料品に関する相談が同率で49.2%となっています。商品一般では不審な電話やメールに関する相談、食料品では、健康食品の定期購入のほか、海産物の強引な電話勧誘販売に関する相談などがありました。



③ 高齢者の相談に係る契約等の既払金額

高齢者の相談に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数は増加していますが、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払額とも大きく減少しています。

(単位：件)

	令和7年 4-9月 (a)	令和6年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	374 人	310 人	64 人	120.6%
既払金額合計	130,928 千円	205,515 千円	▲74,587 千円	63.7%
平均既払金額（一人当たり）	350 千円	663 千円	▲313 千円	52.8%
最大既払金額	24,000 千円	40,000 千円	▲16,000 千円	60.0%

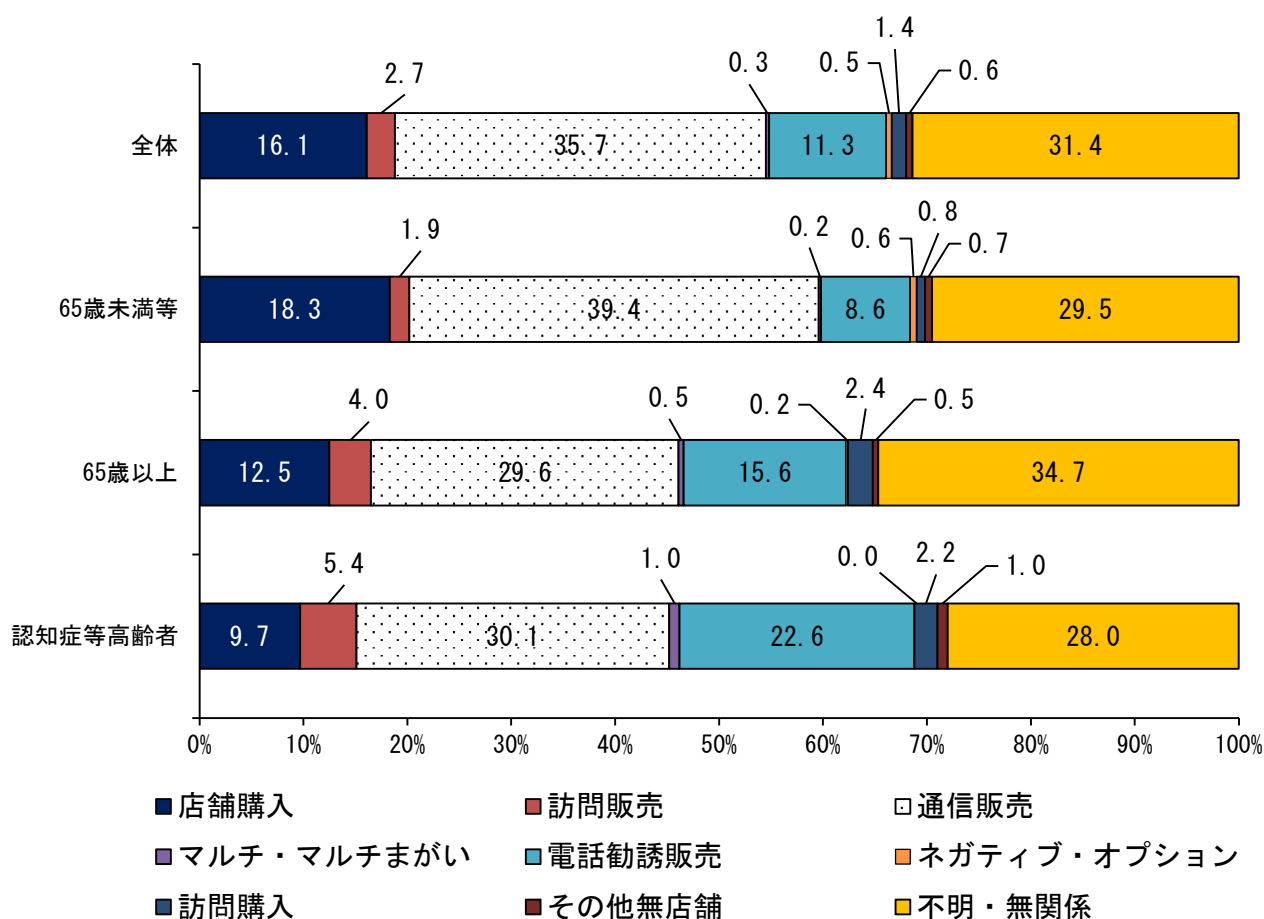
④ 販売購入形態別相談割合

販売購入形態別で見ると、65歳以上では、65歳未満等と比べて訪問販売や電話勧誘販売が多く、特に認知症等高齢者においてその傾向は顕著です。認知症等高齢者の判断力不足に乘じ、悪質な訪問販売や電話勧誘販売が行われていることがうかがえます。

その認知症等高齢者については、依然として多いことには変わりはないものの、訪問販売や電話勧誘販売が減した一方、通信販売が30.1%となり、前年同期（23.2%）よりも6.9ポイント増加しています。

その他、65歳以上で不明・無関係が多くなっているのは、不審な電話やメールの相談がここに分類されることが要因の一つとなっています。

〔販売購入形態別 相談割合〕



(2) 高齢者の特殊詐欺の状況

① 概況

高齢者の特殊詐欺に関する相談件数は 41 件で、前年同期より 78 件 (65.5%) 減少しています。類型別にみると、振り込み詐欺が 12 件 (相談件数の 29.3%) と最も多く、次いでウイルス感染の偽警告 (サポート詐欺) の 10 件 (同 24.4%) となっています。

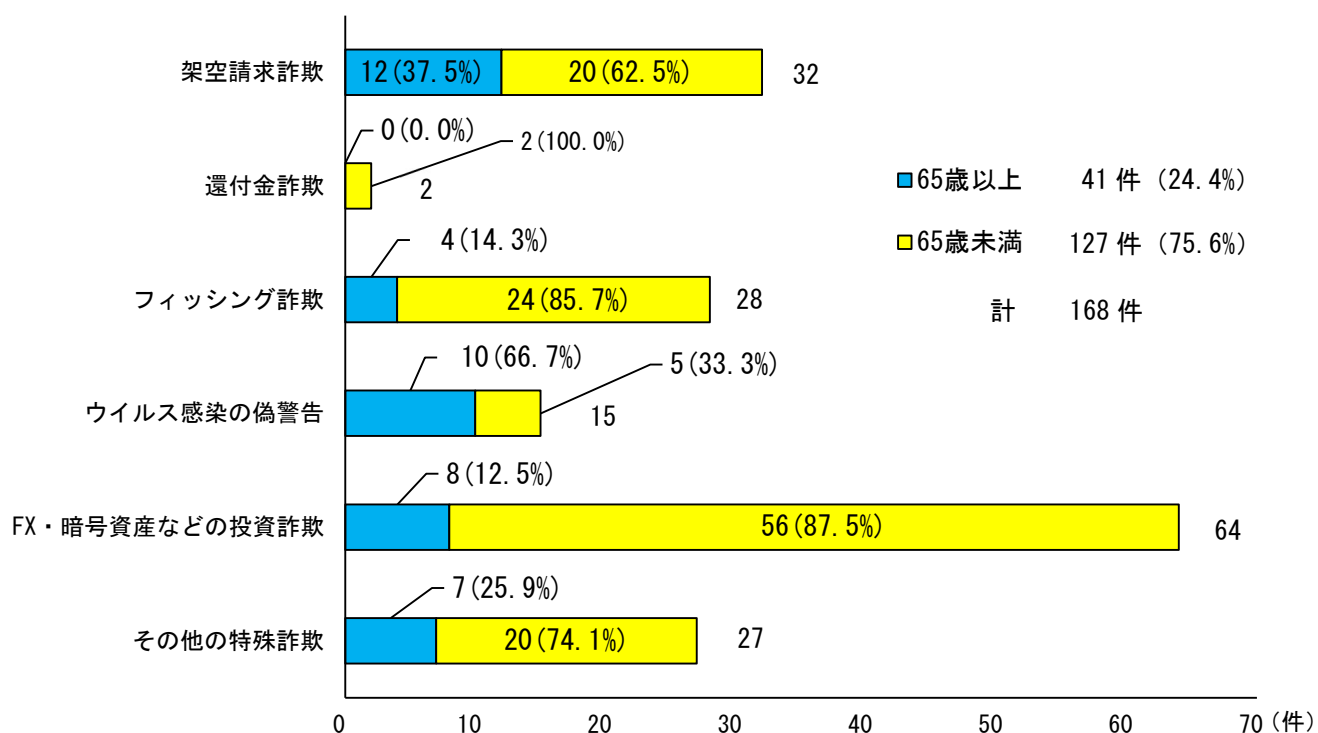
消費生活センターに寄せられる特殊詐欺の相談が大幅に減少したことになります。

(単位：件)

類 型	年 度	令和 7 年 4-9 月 (a)	令和 6 年 4-9 月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
振り込み詐欺		12	61	▲49	19.7%
架空請求詐欺		12	56	▲44	21.4%
還付金詐欺		0	4	▲4	-
融資保証金詐欺		0	0	0	-
オレオレ詐欺		0	1	▲1	-
ウイルス感染の偽警告 (サポート詐欺)		10	16	▲6	62.5%
FX・暗号資産などの投資詐欺		8	12	▲4	66.7%
フィッシング詐欺		4	23	▲19	17.4%
ワンクリック詐欺		3	2	1	150.0%
出会い系サイト・アプリ		3	5	▲2	60.0%
老人ホームの入居権詐欺		1	0	1	-
合 計		41	119	▲78	34.5%

② 特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合

特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合は、ウイルス感染の偽警告が 66.7%と最も高く、次いで、架空請求詐欺が 37.5%となっています。



③ 高齢者の特殊詐欺に係る既払金額

高齢者の特殊詐欺の相談に係る既払金額の状況を見ると、お金を支払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払金額とも大幅に減少しています。

	令和7年 4-9月 (a)	令和6年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年比 (a/b)
お金を支払った人の数	9 人	16 人	▲7 人	56.3%
既払金額合計	9,509 千円	52,484 千円	▲42,975 千円	18.1%
平均既払金額（一人当たり）	1,057 千円	3,280 千円	▲2,223 千円	32.2%
最大既払金額	3,000 千円	30,000 千円	▲27,000 千円	10.0%

5 多重債務に関する相談の受付状況

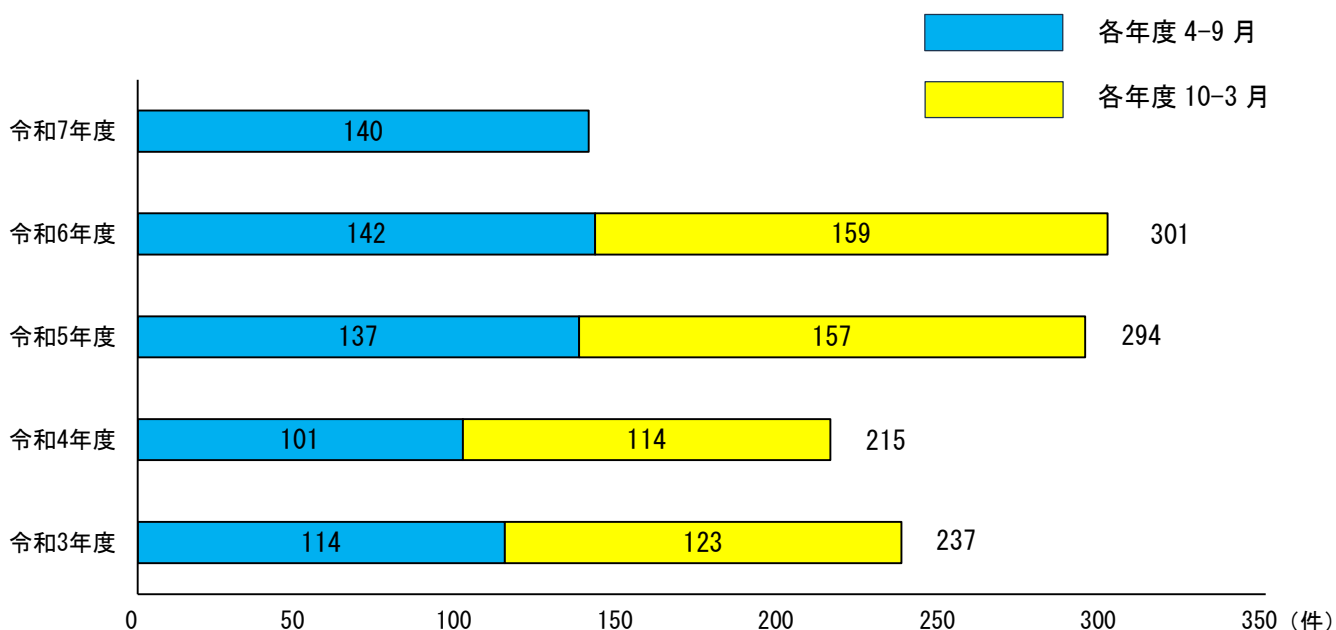
令和7年4-9月における多重債務に関する相談件数は140件で、前年同期より2件（1.4%）減少しています。

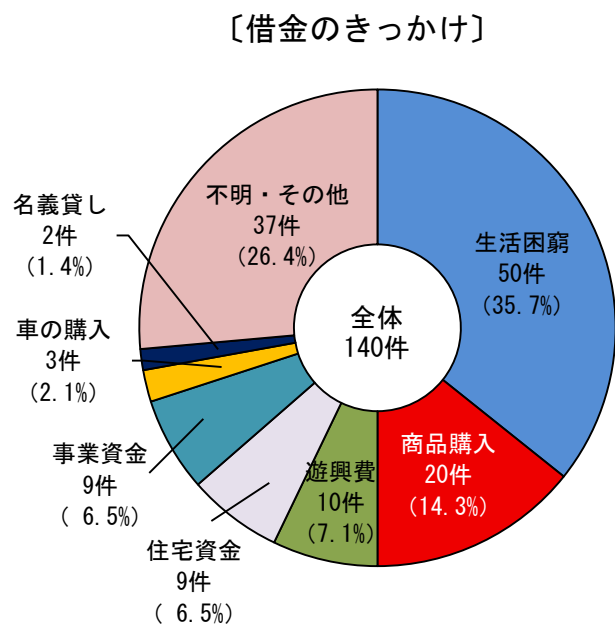
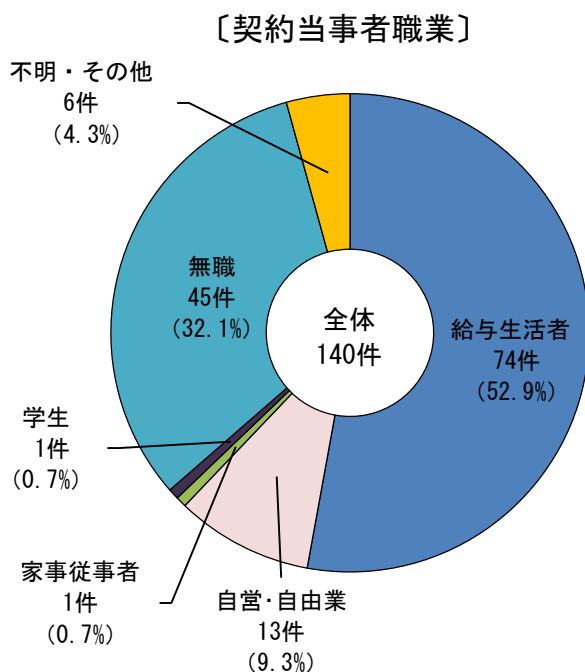
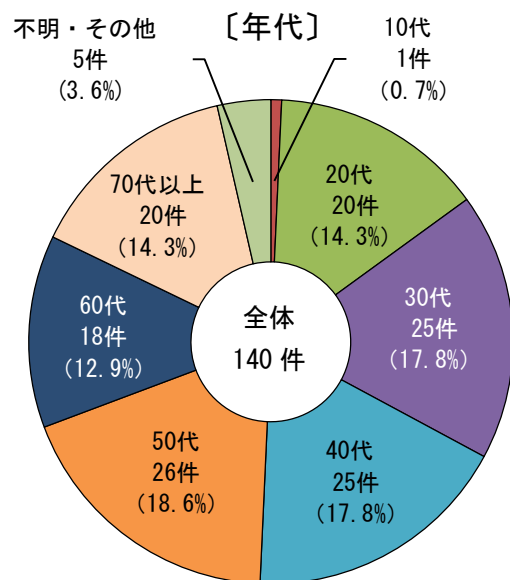
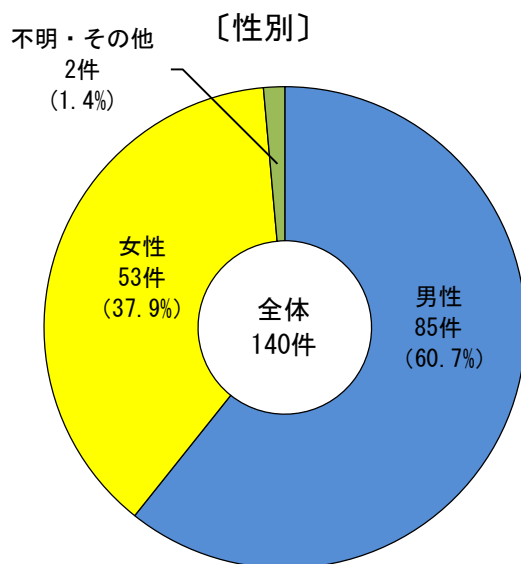
（単位：件）

	令和7年 4-9月 (a)	令和6年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年度比 (a/b)
相談件数	140	142	▲2	98.6%

過去5年間の同時期の多重債務に関する相談件数を見ると、ほぼ横ばいになっているように見受けられます。

〔多重債務相談件数の推移〕





6 ヤミ金などの相談の受付状況

令和7年4～9月におけるヤミ金などに関する相談件数は4件で、前年同期より7件（63.6%）減少しています。

（単位：件）

	令和7年 4～9月 (a)	令和6年 4～9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
ヤミ金	4	7	▲3	57.1%
融資保証金詐欺	0	3	▲3	－
借金整理屋	0	0	0	－
ショッピング枠現金化	0	1	▲1	－
計	4	11	▲7	36.4%

7 商品・役務別相談内訳

(単位：件)

		令和 7 年 4 - 9 月		令和 6 年 4 - 9 月	増 減
			構成比 (%)		
商 品	商 品 一 般	624	13.6	545	79
	食 料 品	319	7.0	372	▲53
	住 居 品	186	4.0	117	69
	光 熱 水 品	101	2.2	86	15
	被 服 品	224	4.9	141	83
	保 健 衛 生 品	468	10.2	398	70
	教 養 娛 楽 品	287	6.3	221	66
	車 両 ・ 乗 り 物	102	2.2	108	▲6
	土 地 ・ 建 物 ・ 設 備	80	1.7	66	14
	他 の 商 品	19	0.4	11	8
	小 計	2,410	52.5	2,065	345
役 務	ク リ ー ニ ン グ	8	0.2	7	1
	レンタル・リース・貸借	157	3.4	162	▲5
	工 事 ・ 建 築 ・ 加 工	79	1.7	83	▲4
	修 理 ・ 補 修	61	1.3	41	20
	管 理 ・ 保 管	2	0.0	3	▲1
	役 務 一 般	27	0.6	35	▲8
	金融・保険サービス	380	8.3	417	▲37
	運輸・通信サービス	512	11.2	398	114
	教 育 サ ー ビ ス	3	0.1	6	▲3
	教養・娯楽サービス	275	6.0	281	▲6
	保健・福祉サービス	196	4.3	128	68
	他 の 役 務	272	5.9	271	1
	内 職 ・ 副 業 ・ 相 場	39	0.9	40	▲1
	他 の 行 政 サ ー ビ ス	27	0.6	16	11
	小 計	2,038	44.5	1,888	150
他 の 相 談		136	3.0	138	▲2
合 計		4,584	100.0	4,091	493

商 品 主 なる 相談 の	① 商品一般（商品を特定できないもの） ② 保健衛生品（化粧品、医薬品、医療用具） ③ 食料品（健康食品、魚介類、穀類） ④ 教養娯楽品（他の教養娯楽品、電話機・電話機用品、書籍・印刷物） ⑤ 被服品（紳士・婦人洋服、履物、洋装下着）
役 務 主 なる 相談 の	① 運輸・通信サービス（インターネット通信サービス、電報・固定電話） ② 金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービス、生命保険） ③ 教養・娯楽サービス（他の教養・娯楽、娯楽等情報配信サービス、教室・講座） ④ 他の役務（役務その他、外食・食事宅配、家事サービス） ⑤ 保健・福祉サービス（理美容、医療、浴場）